

第1学年 英語科学習指導案

平成28年2月18日（木）第5校時

1 単元名

Reading 2 An All-purpose Cloth (Total English Book 1)

2 単元について

(1) 題材観

本題材は、Lesson 8 と Lesson 9 の間にある Reading という単発的な題材である。本課では、身近な内容について述べられた「説明文」である。1つのテーマについて書かれたある程度の分量の文章を読み進め、書かれた内容を正確に理解しつつ、話の内容に対して意見や感想を述べたりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえることに重点が置かれている。

本課の話題は、生徒にとって身近な日本文化である「風呂敷」がテーマになっている。身近であるとはいっても、実際に風呂敷を使っている中学生は無に近いだらう。風呂敷という1枚の布があれば何でも上手に包めてしまうという多機能かつ多目的な側面に、新たな日本文化の良さを知ることにつながる。生徒たちに身近な日本文化を、英語を通して理解させ、それを表現（発信）させる意義は大変大きい。

1学年の最後に「Show & Tell をしよう」という表現活動（自分の好きなものや大切なものなどを紹介する文章を書き、発表するという活動）が扱われる。ここでは、言語活動を通して、「書くこと」と「話すこと」の統合的な学習を進め、さらに4技能の調和のとれた英語学習を行うことが目標とされている。身近な日本文化を表現させるという本題材は、1学年の最終課題である「Show & Tell をしよう」につながる系統的な学習になると考えられる。

小学校での外国語活動から中学校3年間（小中一貫教育）の英語学習を踏まえて、学習段階を考慮した指導を計画的かつ系統的（スパイラル）に行うことが大切である。そのため、様々なテーマについて発表（スピーチ）する活動の指導を段階的かつ定期的に取り入れることで、生徒の表現（発信）力や発表（プレゼンテーション）力を育成していきたい。本題材は、その育成に必要とされる要素がたくさん詰まっていると言えるであろう。

(2) 生徒観

小学校における外国語活動で体験的に学んだことにより、生徒は英語を聞いたり話したりすること（音声面）に抵抗感がなく、中学校での英語学習に意欲的に取り組んでいる。本学級の生徒は、「明るさ」と「穏やかさ」の両面を持ちながら英語を学習している雰囲気がある。毎時間の授業を大切に、「自分の力を伸ばそう」や「英語ができるようになろう」などと前向きな姿勢をもって学習に取り組んでいる。また、与えられた課題には落ち着いてじっくりと丁寧に取り組んでいる生徒が多く、授業における「静」と「動」のメリハリがついている。

下記に掲載されている表は、「平成27年度 Can-Do リスト形式で技能別に設定した学習到達目標の達成率」である。本校1学年の達成率（1学期から2学期への目標値推移）を見ると、4技能

すべてにおいて上昇していることがわかる。そして、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」の3つの技能の達成率は、1・2学期とも8割以上となり到達目標を達成している。

しかし、「書くこと」の達成率は7割台であり、指導の工夫改善が求められる。その要因は、様々な修飾語句等が加わることで一文における英文構造が複雑化するため、正しい英文の語順が定着していないことが考えられる。また、1学年ということもあり、「これ、英語で何て言ったらいいかわからない。」のように、使える英単語や英語表現が限られていることも指摘することができる。

これらの現状を受け止め、本校では、4技能を統合的に活用するための言語活動を充実させていくことが課題である。授業において言語材料と言語活動を関連づけて行う時間を多く確保するとともに、質の高い活動を施すための工夫改善をしていくことが重要であると考えている。そして、1年間を通して生徒の学習到達目標が4技能すべてにおいて80%以上を達成できるよう努めたい。

各技能	学習到達 目標値	達成率		
		1学期	2学期	3学期
聞くこと	80%	83.7%	92.9%	未
話すこと	80%	81.0%	91.6%	
読むこと	80%	80.8%	88.1%	
書くこと	80%	62.9%	73.6%	

【「Can-Do リスト」形式で技能別に設定した学習到達目標の達成率〔平成27年度1学年〕】

(3) 指導観

中学校学習指導要領を踏まえ、「言語活動の充実」がよりいっそう重要となる。まずは、基礎・基本的な知識を身につけさせ、繰り返し学習をすることで、学習内容の定着を図りたい。そして、身につけた言語材料を活用させるための言語活動を充実させることで、確かなコミュニケーション能力の育成へと迫りたい。

生徒が学習内容を身につけ、それを表現できる実践的な運用能力を養うために必要とされることは、言語材料と言語活動を関連づけて行うことである。そこで、4技能を総合的に育成し、統合的に活用するための指導を実践するため、主に次の2点に重点を置いて取り組んでいる。

1つ目は、帯活動として **Sura Sura CHAT** を実施している。本活動は、主に「聞くこと」と「話すこと」の2つの技能を育成するものである。初期段階では、様々な表現のインプット活動を中心に行う。その後、学習した言語材料をもとに、与えられたテーマについて、級友と英会話等に取り組む。最終的には、話したことを書いてまとめたりするなど、複数の技能をそれぞれ有機的に関連づけて行っている。

2つ目は、「読むこと」から「話すこと」や「書くこと」へと発展させた活動を行っている。こちらも各技能の統合的な活用を育成するものになっている。教科書本文を音読した後に、本文を活用したオーラル・プレゼンテーション活動 (**Picture Telling** や **Story Telling** など) に取り組んでいる。生徒は教科書本文を見ずに、本文の内容について要点を3文程度で伝えたり、教科書に掲載されている挿絵や写真を3文程度で描写したりするなどの活動に取り組んでいる。また、本文の内容に関する生徒自身の意見や気持ちも含めて、まとまった内容の文章を4文程度で伝えたりする活動を行っている。上述したような言語活動を授業展開の中に効果的かつ継続的に指導することで、確かなコミュニケーション能力の育成に結びつくと考えている。

本時の授業を実践する上で重きを置くことは、アクティブ・ラーニングを通して「自己表現力」を育む活動を取り入れることである。これまでに学習した言語材料をもとに、「風呂敷の優れた点と活用法」について表現（発信）させたい。ただし、生徒は風呂敷に関する知識等が乏しく、また1年生ということもあり、使える英単語や表現が限られている。そこで、授業形態をグループワークにすることで、生徒間の主体的・協働的な学習が促進され、生徒たち自身でゴールに向かって課題を解決することができるだろう。また、協働的な学習から個々の活動に戻ったとき、生徒一人一人が自信を持って、自分の考えを表現できるようになるだろう。上述した活動こそが、生徒の「自己表現力」の育成に成果をもたらすと考えている。

3 本校研究主題との関わり

『主体的に学ぶ生徒を育む教育活動の創造と実践』 ～ 確かな学力の定着と活用を図る取組の充実（全教科・全領域）～

「基礎基本の知識・技能を習得し、それらを活用しながら思考力、判断力、表現力を育成する」という学習指導要領の各教科共通のキーコンセプトを実現するため、本校では「主体的に学ぶ生徒を育む教育活動の創造と実践～確かな学力の定着と活用を図る取組の充実（全教科・全領域）～」を研究主題として、学校教育活動全体を通して取り組んでいる。

知識・技能を統合して「思考」を深め、その結果を自ら主体的に「判断」して「表現」しながら学習のねらいを達成していくような学びこそが、本校の研究課題に迫るものと考えている。そこで、学習内容や活動内容に応じて、英語の授業の中にアクティブ・ラーニングを取り入れるようにしている。生徒はお互いに主体的・協働的な学習を進めていくため、学習は活性化し知識や技能の定着を促進することになる。そして、それを活用することで確かなコミュニケーション能力の育成へとつながる。アクティブ・ラーニングの実践例として、主に次の2点の活動を取り入れている。

1つ目は、リーディング活動における「ジグソー法」を導入している。ジグソー法を使うことにより、長い文章を分担し、読む量を減らすことで、苦手な生徒も取り組みやすくなる。また、本文の内容を正しく理解することができない生徒、英文を音読することが苦手な生徒などにも、ペアやグループ内でお互いに教え合うことができるため、学習内容の理解や定着が促される。さらに、しっかり読まないグループのメンバーに伝えられないので、「誰かのために読む」というモチベーションの高揚にも効果的であり、協調性や社会性を育てることができると言われている。

2つ目は、Think-Tell-Share 法を導入している。これは、まずは自分で考え（Think）、考えをペアやグループで伝え合い（Tell）、最後にグループやクラスで考えを発表し合い共有し（Share）、考えを深めていく、汎用性の高い手法である。特に、「思考を深める」ことを主とする言語活動では効果的な活用が期待できる。本時の授業を実践する上では最も欠かせない活動と言える。

アクティブ・ラーニングの留意点は、生徒のみで自ら積極的に課題に取り組むことを、教師が期待してしまえば学習活動が機能しなくなる、ということだ。生徒たちが自ら参加する思考・判断・表現の場と時間を作るのが教師の役割だと言われている。だからこそ、生徒へのフィードバックの与え方も重要となる。具体的な問題の指摘に加えて、生徒一人一人を注視しているというメッセージを適宜送るような、情意面に対する地道な働きかけがいっそう大切であるとされている。

アクティブ・ラーニングを導入すれば、必ず成果が保証されるという万能薬のようなものではないと、私は思っている。授業における学習形態は、「個」から「集団や全体」、そして最終的には「個」

に戻る。つまり、アクティブ・ラーニングを通して、協働的な学習から個々の活動に戻ったとき、生徒一人一人が自信を持って、自分の考えや気持ちをまとめた内容の文章で書くことができたり、人前で堂々と英語を話すことができたりするような生徒像を目指している。

4 単元の目標

- (1) 120語程度の読み物材料を通して、読むことに慣れ親しむ。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 日本の文化を英語で学習することを通して、「風呂敷の優れた点と活用法」を発信することができる。
【外国語表現の能力】
- (3) まとまりのある文章を読んで、「風呂敷の優れた点と活用法」と書いてまとめることができる。
【外国語理解の能力】
- (4) 風呂敷の用途や利便性を理解する。
【言語や文化についての知識・理解】

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>◆言語活動への取組</p> <p>○わからないことがあっても、語の意味を推測したり、仲間との話し合いを通して理解したりしている。</p> <p>○これまでに学習した表現を積極的に活用しようとしている。</p> <p>◆コミュニケーションの継続</p> <p>○相づちをうち、相手の話に関心をもって聞いている。</p> <p>○うまく話せない、書けないところがあっても、知っている語句や表現を用いて話し続けたり、書き続けたりしている。</p>	<p>◆正確な音読</p> <p>○強勢、イントネーション、区切りなどを意識して正しく音読することができる。</p> <p>◆適切な発話・筆記</p> <p>○与えられたテーマについて、自分の意見や感想等を含めた内容で適切に話したり、書いたりすることができる。</p>	<p>◆正確な聞き取り</p> <p>○教科書本文の内容を正しく聞き取ることができる。</p> <p>◆正確な読み取り</p> <p>○教科書本文の内容を正しく読み取ることができる。</p> <p>◆適切な読み取り</p> <p>○教科書本文の内容の要点（概要）をまとめることができる。</p>	<p>◆言語についての知識</p> <p>○語彙や語句の意味について知っている。</p> <p>○正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。</p> <p>◆文化についての理解</p> <p>○風呂敷の用途や利便性を理解している。</p>

6 学習指導計画（4時間扱い）

[○：形成的評価 ◎：総括的評価へ]

時	◆ねらい ○学習活動	評価の観点			
		(関)	(表)	(理)	(知)
1	◆本文を聞いたり読んだりすることにより、本文の内容の概要（要点）を理解する。 ○本文の内容に関する英問英答を行い、本文の内容の概要を理解する。 ○音読形態を工夫しながら本文を段階的に音読し、リプロダクション活動へとつなげる。	○	◎	○	
2	◆本文を聞いたり読んだりすることにより、本文の内容の詳細（「風呂敷の使い方」と「風呂敷の様々な利用法」）を理解する。 ○ジグソー法を用いて、本文の内容（「風呂敷の使い方と様々な利用法」）を要約する。 ○音読形態を工夫しながら本文を段階的に音読し、リプロダクション活動へとつなげる。	○	◎	○	
3	◆風呂敷について、その使い方と様々な利用法を Story Telling する。 ○風呂敷の使い方と様々な利用法について、その内容を3文程度の英文で伝える。 ○風呂敷の使い方と様々な利用法について、自分の意見や感想を2文程度の英文で伝える。	○	○		○
4 本 時	◆風呂敷の優れた点と活用法について、自分（たち）の意見を含めて、まとまった内容を伝える。 ○風呂敷の優れた点について、まとまった内容の文章を3文程度の英文で伝える。 ○風呂敷の優れた点と活用法について、自分（たち）の意見を含めて、まとまった内容の文章を5文程度の英文で伝える。		○		◎

7 本時について

(1) 本時のねらい

- ・風呂敷の優れた点について、まとまった内容の文章を3文程度の英文で正確に話すことができる。
【外国語表現の能力（S）】
- ・風呂敷の優れた点と活用法について、自分（たち）の意見を含めて、まとまった内容の文章を5文程度の英文で適切に書くことができる。
【外国語表現の能力（W）】

(2) 本時の評価規準

[○：形成的評価 ◎：総括的評価へ]

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
本時では評価しない。	○風呂敷の優れた点について、まとまった内容の文章を3文程	本時では評価しない。	本時では評価しない。

	<p>度の英文で正確に話すことができる。</p> <p>◎風呂敷の優れた点と活用法について、自分（たち）の意見を含めて、まとまった内容の文章を5文程度の英文で適切に書くことができる。</p>	
--	---	--

(3) 本時の展開

過程	学習活動 《形態》・学習内容	評価規準との関連	・指導上の留意点 ○形成的評価 ◎総括的評価へ
導入 8分	<p>1. あいさつ 英語で簡単なあいさつ（日付・天気）をする。</p> <p>2. アウトプット活動 <i>Sura Sura Chat</i> 『トピック』なりきりテリング ・与えられたトピックについて、まとまった内容をパートナーに伝える。 ・その内容に関する質疑応答を交わしながらペアで会話する。</p>		<p>・英語の授業の雰囲気を作る。</p> <p>・次の3点に留意させる。 ①アイコンタクトを持続させる。 ②会話が途切れないように、相づちを使用させる。 ③質疑応答の際は、お互いに助け合いながら会話を継続させる。</p>
展開 41分	<p>3. リーディング活動 [3分] 教科書本文の要約文（4ピース）をペアで交互に音読練習をする。</p>		<p>・音読練習の際に、loudly と clearly に音読するようにする。</p> <p>・正確な音読となるように、ペアで確認し合いながら音読する。</p>
	<p>A A <i>furoshiki</i> is a Japanese traditional cloth. You can wrap things with it. You can carry things in it, too.</p> <p>B You can use a <i>furoshiki</i> as a shopping bag. You can use it many times. Also, you can fold it into a small square and carry it everywhere.</p> <p>C A <i>furoshiki</i> is useful in many ways. You can wrap many kinds of things with it. You can carry even watermelons or bottles in it.</p> <p>D A big <i>furoshiki</i> can be a mat or a cushion cover. A small one can be a scarf or a handkerchief. A <i>furoshiki</i> is an all-purpose cloth.</p>		
	<p>4. ピクチャー・テリング [8分] ピクチャーカードを用いて、「風呂敷の優れた点」について、3文程度の英文で表現する。 (1) 全体練習 Chorus Practice</p>		<p>・展開4へ円滑に進むように、前時かつ展開3で繰り返し練習する。</p> <p>・ピクチャー・テリング練習の際は単なる音読にならないように、絵を示しながら行うようにする。</p>

- A A *furoshiki* is an all-purpose cloth. You can use a *furoshiki* as a shopping bag. You can use it many times, so you don't need new plastic bags.
- B A *furoshiki* is an all-purpose cloth. You can fold a *furoshiki* into a small square and carry it everywhere. Also, you can use it as a pouch and carry things in it.
- C A *furoshiki* is an all-purpose cloth. You can wrap many kinds of things with a *furoshiki*. For example, you can carry even watermelons or bottles in it.
- D A *furoshiki* is an all-purpose cloth. You can use a big *furoshiki* as a mat or a cushion cover. Also, you can use a small one as a scarf or a handkerchief.

展
開
4 1
分

(2) 個人練習 Buzz Practice

ピクチャーカードを用いて、「風呂敷の優れた点」を、口頭で伝えられるように各自で練習する。

上記の4つから1つ選び、その内容について3文程度の英文で伝える。

(3) ペア練習 Pair Practice

お互いに練習し合う。その際、お互いの活動をアドバイスし合い、ピクチャー・テリングの完成度を高めさせる。

(4) 発表 Oral Presentation

数名の生徒がクラスの前でピクチャー・テリングを発表する。

5. プレゼンテーション [25分]

風呂敷の優れた点と活用法について、自分(たち)の意見を含めて、5文程度の英文で伝える。

◆授業の目標の一つとなる「問い」を投げかけ、この「答え」を考えながら、生徒は主体的に活動を進めていく。

[BQ] How do you use a *furoshiki*?

(1) モデル紹介 Demonstration

全体にモデルを示す。

◀モデル例▶ This is a *furoshiki*. It is an all-purpose cloth. For example, you can wrap many kinds of things with it. I bring my thermos to school every day. I want to use a *furoshiki* as a thermos bag. A *furoshiki* is a useful cloth.

(2) 個人活動 Individual Activity

風呂敷の活用法について、自分自身のアイディアを考える。

(表)
適切な
発話

- ・生徒の習熟度に応じた課題を設定する。学力の高い生徒には示された英文に頼らず、他の表現を活用させ、オリジナル度を高める。学力の低い生徒には教師や級友の支援を得ながら段階的に指導する。
- ・全員が読めるように、個人への支援指導をする。
- ・練習形態はプレゼンテーション形式で行う。ペアの発表を聞きながら、相づちを打ったり、うなずいたりするように促す。
- 風呂敷の優れた点について、まとまった内容の文章を3文程度の英文で正確に話すことができる。
- ・プレゼンテーションのモデルを示すことで、どのような活動をするのかをイメージさせる。
- ・活動の構成を説明して、取り組みやすくする。これまでの知識や技能を基盤にして、思考を深める活動を与えることで定着を図る。
- ・主体的な学びができるように、答えがすぐに出ないBQを与える。

- ・活動が円滑にできるように、事前に様々な活用法を紹介しておく。

<p>展 開 4 1 分</p>	<p>(3) グループ活動 Group Activity</p> <p>①個々のアイデアをグループ内で発表し合い共有する。</p> <p>②グループ内で話し合い、アイデアを1つに絞り、発表用に英文をまとめる。</p> <p>③グループ内で発表に向けた口頭練習をする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとともに机間指導を行い、活動が円滑に進むよう支援する。 ・グループ内でお互いに助け合ったり、助言し合ったりするなどして、発表の完成度を高めさせる。 ・まとめる際には、英文を書かせず、最初は口頭を中心とした取組になるように指示する。
	<p>《グループ活動における留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で生徒が果たす役割を明確にすることで、円滑な活動を目指す。 【例】司会者 (chair person) や記録者 (note taker) など ・生徒自ら主体的な働きかけができるような支援を工夫する。グループ内において、積極的に自分の意見を伝えたり、級友の発表を聞きながら相づちを打ったりするなど、コミュニケーションへの意欲を高めさせる。 ・発表の終わりに“Thank you.”と感謝のことばを言うよう促し、お互いの存在意義を高めさせる。いろいろな人に感謝する経験こそが、より良い人間関係を育てていく。 		
	<p>(4) 発表 Oral Presentation</p> <p>評価 Feedback</p> <p>数名の生徒がクラスの前でプレゼンテーションを発表する。ALTとともに生徒へフィードバックする。</p> <p>(5) ペア練習 Pair Practice</p> <p>発表・評価で共有したことを生かして、再度異なったパートナーと練習する。</p> <p>6. まとめ (Writing) [5分]</p> <p>5「プレゼンテーション」の活動で発話した(取り組んだ)表現を、5文程度の英文で書いてまとめる。</p>	<p>(表)</p> <p>適切な 筆記</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者の緊張を少しでも軽減させるために、Hello. と大きな声で返したり、温かな拍手をしたりなど、クラスの雰囲気のを和ませる。 ・生徒の間違った発音、文法的・語彙的ミスそのままにせず、できる範囲でフィードバックする。 ・5 (4) の発表で評価したことをクラス全員で共有し、その点を意識させ、かつその点を生かしたペア練習を再度行う。 <p>◎風呂敷の優れた点と活用法について、自分(たち)の意見を含めて、まとめた内容の文章を5文程度の英文で適切に書くことができる。</p> <p>※ここでは、5「プレゼンテーション」のみの総括的評価を行う。</p>
<p>終 末 1 分</p>	<p>7. あいさつ</p> <p>英語で簡単なあいさつをする。</p> <p>本時全体のフィードバック</p> <p>次回の予告</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく行う。 ・本時の全体評価を伝え、次回への授業への意欲を高める。